

ダルニー通信

67
2012
秋号

特集

民際センター 四半世紀の景色



- 作家 西木正明さんのラオス訪問記
- MS&ADインシュアランスグループ
第17回バレンタイン・チャリティコンサート
- 日本人支援者がラオス政府から叙勲

民際センター四半世紀の景色

今年は創立25周年を迎えます。前号でお伝えしましたように25周年の特別企画を掲載します。今号では、この25年間のタイ・ラオス・カンボジアの風景と活動を写真で振り返ります。



原点

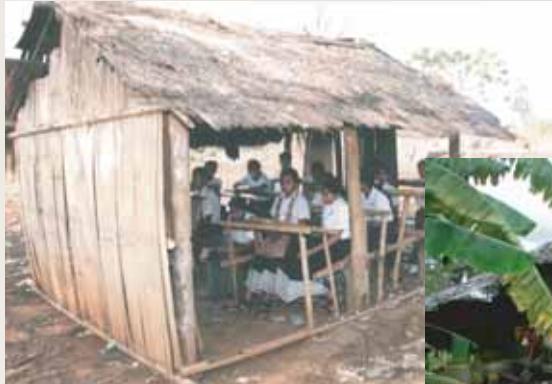
1987年の秋尾とダルニーの出会い。
第1期の奨学生の集合写真。
そして、タイ事務局に勤務する現在のダルニー。



ダルニー奨学金のきっかけとなったダルニーとの出会い（右上）。ダルニーが中学生になって秋尾から奨学金をもらう（左上）。現在のダルニー（左下）。第1期のダルニー奨学生10名（右下）。

貧困

経済発展、現金経済の浸透。
その影で置き去りにされる家族・子どもたち。
格差がなかなか縮まらない。



ラオスの小学校



カンボジアの奨学生の家。
ゴミを集めて生活している



ラオスの奨学生の家

幸福

収入は少ないけれど、助け合う家族、
村の温かい人間関係。
近隣の子どもも同士も仲が良い。



生活

子どもたちは学校に行く前と後、それに週末と夏休み、父母を助けて家事や田植えをする。今でも農村部では、子どもたちは家族の貴重な労働力だ。



週末や夏休みに両親を手伝うタイの奨学生



ラオス・カンボジアの子どもたちは朝の水汲みが日課

笑顔

「目が輝いている。笑顔が素晴らしい」
現地を訪ねて、子どもたちに会った人は
大抵そう言う。その輝きは今も失っていない。



歓喜



奨学金授与式。
遠い日本の支援者からの奨学金で
1年間学校に通える。
子どもたちの夢が大きくふくらむ日。



交流

子どもたちに奨学金を手渡したり、
一緒に踊ったり歌ったり、
何かを作ったり…。
こうして「民際」が深まっていく。



現地を訪問し、奨学生たちと交流する
支援者たち



学習

両親の学歴に比べて、
子どもたちの学歴が確実に上がってきた。
「先生になりたい」「看護師になりたい」
夢を実現するために一生懸命に勉強する。



感謝

必死の努力で夢を実現した元奨学生たち。
何年たってもドナーへの感謝は忘れない。



結婚して子どもが生まれてから、バンコクに
単身赴任して看護師になった元奨学生



第1期の元奨学生が東京で支援者と涙の再会

協力

「もし自分が支援がなければ学校に行けない
境遇だったらと思って活動を始めました」という若者。
「他人を支援するための活動って気持ちよいですね」。



街頭募金やフェスティバルで募金を呼びかける若者たち



連鎖

東日本大震災の被災者にタイ・ラオス・
カンボジアから支援。
タイの洪水被災者には日本から支援。
支援し合う関係が生まれている。



文化祭でタイの洪水被災者の支援を呼びかける
陸前高田市立第一中学校の生徒たち



今年3月11日、東日本大震災の被災者を追悼する
カンボジアの子どもたち

希望

学校で友達と一緒に勉強できる。
それが将来の夢・希望を叶える第一歩。



2012年度 通常理事会及び 評議員会を開催

2012年度第1回理事会及び評議員会を開催し、以下の議題について報告・承認されました。

- 1.2011年度事業報告
- 2.2011年度会計報告

■理事長挨拶

2011年度もご支援ご協力を寄せ下さった皆さんに深く感謝しております。

タイ洪水の緊急支援としての募金活動や教育分野の復興支援にも多くの方々からご協力をいただき、国を越え、民と民の「絆」の運動がより一層広く展開されました。

前年度の収入減の傾向が続き、2011年度も継続して人件費削減を断行せざるを得ませんでした。

2012年度にはIT化促進が計画から実施段階に入り、寄付金の銀行自動引き落としの取り扱いを順次開始します。世界どこからでもクレジット・カードで寄付できる体制もEDFグループとして構築しつつ、ミャンマー、ベトナムを含めたメコン5カ国での教育支援拡充のため努力を重ねております。「量」の拡大が難しい場合、「質」の充実で費用対効果を図り、着実に施策の舵取りをしてまいります。今後も皆様からのご理解、ご指導、ご協力を賜りますようお願いいたします。

長期戦略を立てたい
踏まえて
格差の現実を



草場宗春 理事

アセアン10カ国に日本、中国、韓国を含めた地域が現在、世界経済をリードしている。

こうした中で、民際センターが支援地域にミャンマーとベトナムを加えるのはよいことだと思う。しかし、現実には各国の発展に格差がある。経済発展と格差のバランスを考慮しつつ、また日本国内の足元を見つめながら、海外事業の長期的な戦略を立てていきたい。

1.2011年度事業報告

①奨学金事業

(タイ5,950名・ラオス5,602名・カンボジア1,574名)

②ラオス校舎建設事業

(2校完成、5校建設中)

③図書事業

(ラオス国内の学校に194個の図書セットを寄贈)

④ブーンライ保健衛生事業

(ラオス国内の15の小学校で健康診断を実施)

⑤ラオス教師修士留学事業

(現在、10名がタイ・コーンケーン大学修士課程に留学中)

⑥ラオス少数民族教師養成事業

(10名の学生に奨学金支給)

⑦OSOP事業

(タイの中学校7校での1校1事業を支援)

⑧旅行事業

(ラオス国際交流の旅実施、13名参加)

⑨国内活動支援事業

(第11回全国ドナー連絡会が甲府で開催。約200名が参加)

⑩タイ王国奨学金事業

(委託:バンコク、チェンマイで実施されている奨学金事業のサポート。中学生44名、高校生58名に提供)

⑪緊急支援事業

(タイ洪水被害への緊急支援事業。タイ洪水緊急募金の募金総額は2,889,058円、タイ洪水被災地学校への「お見舞いセット」支援寄付は7,063,000円)

2.2011年度会計報告

同封資料をご覧ください。

基礎教育終了後の
ステップにつながる
働きかけ必要



後藤満 評議員

東日本大震災で、国際支援に关心を向けてもらうのは難しい時期。一方、日本はミャンマー支援に目を向けている。そんな中で、メコンという括りでミャンマーとベトナムの支援を追加するのは良い選択だと思う。基礎教育が終わっても仕事がない状況も目に見える。基礎教育終了後の次のステップにつながる働きかけを政府・行政にする必要があるかもしれない。

『身も心もふるえたラオス』

作家 西木正明



左からEDFラオス事務局のジョイ、西木氏、郡の奨学生担当者

「寒い！」

昨年すなわち2011年3月下旬。わたしは前代未聞の大災害に見舞われた日本から、後ろ髪ひかれる思いで旅立った。そしてラオス北東部の都市ボーンサン郊外にある、シエンクワン空港に降り立った時に発した、最初の一聲がこれだった。海拔千メートルを越す高地とはいえ、北緯19度のいわば熱帯だ。摂氏10度以下という低温は、まさに想定外の寒さであった。まさかと思っての、Tシャツと半パンという軽装がまちがいのもと。だが、これはまだほんの序の口だった。

1960年代のラオス内戦当時、現政権の源流であるパテトラオ（※1）の拠点が置かれた、ベトナムとの国境に近い山岳地帯にあるビエンサイという町では、朝晩の気温が摂氏5度以下まで下がった。

これは日本が未曾有の国難に遭遇している最中、むりやり出かけてきた罰だ。心の中でぼやきながら、ベトナム戦争当時のホーチミンルート跡、建国の父と言われるカイソン元ラオス人民革命党書記長、スファヌウォン元大統領の隠れ家跡などを見てまわった。

宿泊した民宿では、簡素なベッドに敷かれていたマットレスを、床に下ろしてかけ布団代わりにし、ふるえながら夜を過ごした。辺境取材には慣れているが、熱帯地方の夜、こんな寒い思いをしたのは、約10年前、サハラ砂漠を横断しながら取材した時以来である。現在執筆中の『辻政信・潜行三千里の幻』（※2、※3）（仮題）取材のためとはいえ、もし来世



訪問した学校に学用品を贈呈する西木氏（左）

なるものがあるなら絶対に物書きにはなるまいぞと、あらためて思った。

こうしておよそ10日あまりを山岳地帯で過ごして首都ビエンチャンに戻り、次の予定である南部ラオスのカムアン県訪問の打合せのため、民際センター諮問委員の秋尾さんと落ち合った時は、正直ほつとした。

翌日朝早く、ラオス民際センターラオス事務局の車で一路南へ。この先訪れる所はラオス南部で、しかも平地だと聞いているので、暖かい夜が期待出来る。

メコン川ぞいの道をひたすら走り、夕刻近く、県都ターケックから少しベトナム国境沿いに入った小さな村に到着する。昭和の頃の日本の農村を彷彿とさせるようなたたずまいの村で、放し飼いの鶏が足元を走り回っているのを見て、自分の子供の頃を思い出した。案に相違して夜はけっこう寒かったが、村人たちの温かい歓迎に感激、ひしぶりゆっくりと眠れた。

翌日は朝から、民際センターが建設、寄贈した小学校を訪問した。かつて故立松和平さんが来訪、子どもたちと交流を深めたという小学校である。乾いたタオルが水を吸収するように学ぶ、子どもたちの姿に心を打たれた。

北部山岳地帯では緊張と寒さで身体がふるえ、南部の農村では、人の心の優しさに心がふるえた旅であった。

※1 パテトラオ：ラオス愛国戦線。1959年から1975年までラオス王国で内戦が続き、75年に王国政府を倒して全土を掌握した。

※2 文中で触れた作品の刊行は、十一月下旬ごろになります。近刊は『ガモウ戦記』（文藝春秋・文春文庫。九月上旬予定）です。

※3 辻政信：日本の陸軍軍人。戦後は衆議院議員（4期）、参議院議員（1期）を歴任。ラオスで行方不明となる。



訪問した学校の子どもたち

西木正明氏のプロフィール

1940年秋田生まれ。平凡出版（現マガジンハウス）勤務。1980年、「オホーツク諜報船」で日本ノンフィクション新人賞を受賞。1988年、「凍れる瞳」「端島の女」で第99回直木賞受賞。ノンフィクションを中心に著書多数

ラオス人民民主共和国・教育体育省が学校建設寄贈者に叙勲

この度ラオス教育体育省は、民際センター・ラオス事務所に、小学校を2校以上寄贈したドナーに対して労働勲章を贈呈するとの喜ばしい連絡がありました。ラオスの教育開発に顕著な貢献をされたという趣旨です。

叙勲の対象になる方は下記の通りです。（敬称略）

- | | |
|----------------|---------|
| 1. 田中五十鈴 | 労働勲章第2等 |
| 2. 一家明成 | 労働勲章第3等 |
| 3. 富士通ユニティ労働組合 | 労働勲章第3等 |
| 4. 大同生命基金 | 労働勲章第3等 |

一家明成氏に教育体育大臣から勲章が授与されました

一家明成氏が寄贈した学校の竣工式出席のためラオスを訪問した6月初旬、ビエンチャンにおいて教育体育省の主催で受勲式が執り行われ、ラオス政府を代表して同省のパンカム・ビパワン大臣から労働勲章が贈呈されました。一家氏は、2009年にカムワン県ノンボク郡のハドジエンシー小学校に統いて、2012年に同県サイブアトン郡のパーコン小学校を寄贈。パーコン校の竣工式では、図書セット（LL1000）も提供しました。また、これまで建設した学校と近隣の子ども達を対象に多数の奨学金を寄付し、カムワン県のクアドン中・高校にはパソコンを寄贈しました。



ビパワン大臣(左)と一家氏(右)

授与式で一家氏は、「この度、ラオス政府から労働勲章を授与されたことに、大変な栄誉と慶びです。今後も継続してラオスの教育開発を支援したいと考えております。21年前に銀座ステファニー化粧品を設立しまして、現在は名誉会長ですが、従前よりボランティア活動に力を注いでおります。ラオスを初め、ベトナム・フィリピン・ミャンマー・中国で約30校の学校建設に協力してきました。100校の学校建設をめざしています。」とスピーチされました。

「共感助成」プログラムでラオスの学校へ図書セットを贈ると、

「共感助成」とは、公益財団法人信頼資本財団が認定した公益性の高い事業・団体に対して寄付金を助成するプログラムで、寄付金以外にも同財団のネットワークで蓄積されたノウハウなどを使って事業を助成します。

この「共感助成」の助成先として、民際センターの「ラオスの学校へ図書セットを贈る」プロジェクト（Lao-Library1000）が認定されました。今までには、Lao-Library1000へのご寄付は、郵便局、銀行へのお振込み、クレジットカード、不要な本・CD・DVD等をリサイクルしての寄付の3通りでしたが、「共感助成」からのご寄付の場合、上記方法に加え、下記の寄付方法も可能です。



- コンビニ
- ペイジー
- サイバーEdy

※公益財団法人信頼資本財団は、特定公益増進法人に該当するため、寄付者の税は確定申告をすることによって寄付金控除の優遇措置を受けることができます。



<http://www.shinrai.or.jp/furtherance/minsai/>

税制優遇措置を受けられます！

第17回 バレンタイン・チャリティコンサート



MS&AD
ホールディングス
浜 一平

去る2月17日、三井住友海上駿河台ビルの1F大ホールにおいて、MS&ADゆにぞんスマイルクラブとMS&AD軽音楽部の共催による「バレンタイン・チャリティコンサート」を開催いたしました。

1996年に住友海上にて始まりましたこのイベントも、早いもので

第17回を数えるに至り、実績と歴史のあるイベントとして大きな飛躍を遂げました。会社自体も2001年には三井海上と合併し、2008年には持株会社体制へ移行し、さらに2010年にはあいおいニッセイ同和損保と経営統合をするなど大きく発展し、これに合わせるかのように、軽音楽部も順調に規模を拡大し、現在ではグループ各社合わせて総勢約50名の部員を擁する団体へと成長いたしました。

本イベントでは、チケットの売上金に、海外も含めたグループ社員・来場者からの募金も上乗せし、その全額を寄付させていただいており、前回までに、計264名の子どもたちを支援してまいりました。そ

274名が来場！
17回目で支援する奨学生が300名を突破！



して、今回はさらに、未使用プリペイドカード、未使用切手、書き損じハガキなども回収・換金の上、これを寄付金に上乗せし、最終的に過去最高の159万円を寄付させていただくことができました。この寄付金により、新たに53名の子どもたちに奨学金を贈呈することができる運びとなり、累計支援人数は、前回までに支援した奨学生とあわせて317名に達しました。例年、タイ・ラオス・カンボジアの3ヶ国の子どもたちを支援しておりますが、今回は特に、洪水による被害が深刻であったタイの子どもたちを中心に支援させていただきました。改めて、同地域の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げるとともに、奨学金の支援を受けた子どもたちが、未来の国を担う人間へと成長されることを今から楽しみしております。

さて、今回のコンサートには、当社グループ社員で構成されるバンド3組（総勢24名）が出演し、メドレー曲を含め全18曲を演奏しました。また、昨年は叶わなかった当社グループ・チアリーディングチーム「ドルフィンズ」（6名）とのコラボレーションも実現することができました。おかげさまで今回は274名ものお客様に来場いただき、大好評のうちに幕を閉じることができました。ありがとうございました。

ナープ関東の支援活動

退職後の生活を 楽しむ意欲のある 方々の集まり



豊かで充実した中高年社会の構築を目指して、人生を積極的に楽しむ意欲のある方が集まる会。それがナープ関東です。毎月の会報で、囲碁の会、グルメの会、俳句教室、カラオケ、国内・海外旅行、健康麻雀会、ぶらり散歩、工場などの見学会等などを案内しています。ナープ(NARP)とはNippon Association for Refreshing Persons の略で、AARP(全米退職者協会)をモデルに1992年に設立されました(今年20周年)。現在、会員は約120名。平均年齢は74~75歳。年会費は単身だと5,000円、夫婦の場合は6,000円。そして、好きな活動に参加する場合に、その実費を支払うという仕組みです。

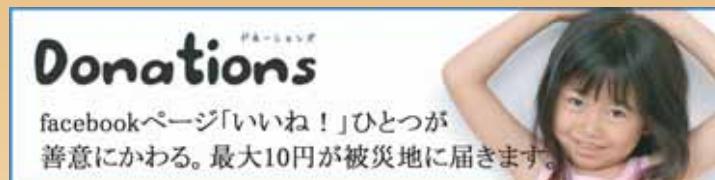
ダルニー奨学金への支援は2009年から。活動を楽しむこと以外に、何か社会貢献活動をしようと検討

したけれど、なかなか適当な活動が見つけられなかったところ、ダルニー奨学金を紹介されたそうです。当初は「なぜ日本人の支援ではないのか」などの意見も出たそうですが、「成果が目に見える活動」「1万円で1人の子が1年間学校に通える」ことなどが理由で支援をスタート。6月と11月の懇親会で寄付を集め、以後、毎年Aタイプで2人ずつ支援しています。

一度入会すると病気など特別な理由がない限り、退会する人はほとんどいないそうです。「私達は年会費だけで運営しているので、会の皆さんほどにも気兼ねなく、個人として生き生きと楽しく交流しています。それが気持ちの良い人間関係の定着につながっていると思います」と会員の前川さん。同会についてのお問い合わせは03-3359-2018 担当:前川まで。

facebook
ユーザーさん
に朗報!!!

1クリック10円が、 経済的に恵まれない子どもの支援に



民際センターが寄付ポータルサイト

「ドネーションズ」の寄付先団体に選ばれました♪
必要なのは、facebookのアカウントだけ。

ドネーションズは、協賛企業のfacebookページに
「いいね！」を押すだけで寄付になる
あたらしい形のクリック募金です。
あなたの「いいね！」が、
支援を望んでいる団体と
協賛企業の両方に喜ばれるサービスです！

【寄付方法】

- ①「ドネーションズ <http://www.donations.jp/>」のサイトを開き、画面右上にある「ログイン」ボタンを押す。
- ②「ドネーションズは次の許可も求めています。」画面になるので、不要なら「スキップ」する。
- ③画面右上の「マイページ」ボタンを押し、「あなたの寄付先設定」を「民際センター」に変更して保存する。
- ④TOPページに戻り、掲載企業の「いいね！」ボタンを押す。たったそれだけ！！！

※マイページで寄付先を変更しないと、他団体への寄付になりますのでお気を付け下さい！

～サポーターズNOW!～

新潟ドナー連絡会 ベトナム奨学生支援



2012年5月3、4日、大型連休の真っただ中、新潟市にて「万代アースフェスタ2012」が華麗にオープン。設立四半世紀を迎える(財)民際センターに快く賛同する新潟ドナー連絡会の世話人はこの絶好の広報機会を見逃すはずがない。新たに事務局が試みんとするベトナムのダルニー奨学生の情報を目敏くすっぱ抜いた情報戦の匠の指揮の元、市内の私立大学院大学に留学しているベトナム学生たちからお父さんのように慕われている新ダ連の隠し刀「マッキー」の加勢も得て、駆けつけたベトナムの学生たちは総勢9名にも達した。しかも、彼らが持ち寄った自前グッズや、香り高いベトナム珈琲サービスを駆使して道ゆく人々に積極的、かつ魅惑的に声を掛ける。「いらっしゃいませ♪」微妙に目的と掛け声はマッチしてはいないが、何人（なんびと）たりともその艶やかなミンザイ、いやアオザイ姿の彼女たちの笑みと誘いに逆らう事はできず、1人、また2人と広報ブースへと吸い寄せられ、事務局秘伝の「コインで誘惑（勝手に命名）」パネルが淨財で満たされた。そして、遂に奨学生3名分を確保。2日間の疲れを心配してねぎらう世話人に彼らは「楽しかったし、誇らしかった。ベトナムの子どもたちの為にまたやりたいです」と口々に答える。さて、日本の青年たちは彼らのそんな言葉を聞いたら、どんな反応を見せるだろう？

（新潟ドナー連絡会 世話人 赤石隆夫）

ヤマハ・ゴスペル スギモト・クワイアが 10回目のコンサート

2003年から継続してダルニー奨学生を支援しているヤマハ・ゴスペル スギモト・クワイアが今年も千葉県木更



津市の市民会館（大ホール）でチャリティ・コンサートを開催しました。杉本智孝さん率いる同クワイアは2003年から継続してタイ・ラオスの奨学生を支援。過去9回のコンサートで合計約160万円の奨学生を提供してきました。昨年は奨学生に加えて、東日本大震災で被災した陸前高田市立第一中学校への支援も行いました。今年は10周年を記念して「トリニティー」や淡野昌氏も特別ゲスト。コンサートの最後には全員で「アーメージンググレース」や「Oh Happy Day」を歌って感動のフィナーレ。コンサート終了後、杉本さんの2人のお嬢さんが募金箱を手に支援を呼びかけ（写真）、今年も約15万円の寄付が集まりました。

「ふらいさに～」 占い1回で100円寄付

札幌のドナー連絡会「ふらいさに～」の“なっちゃん”こと山本夏江さんは神出鬼没。今度は友人が主催する手作りマーケットにタイ柄のタロットカードとダルニープレートを持ち込んで



奨学生を集めています。お客様に1回200円（うち100円を寄付）でタロットカードを引いてもらい、カードに描かれている絵に合ったおみくじ（メッセージカード）を引いてもらうそうです。メッセージカードはなっちゃんの手作り。マーケットは月に1回、2日間。「年内にプレートの100円の穴がいっぱいになるかも」とちらりと自信をのぞかせる。この予感は当たる？

全国ドナー連絡会

今年は長野県佐久平市で開催

会場 佐久グランドホテル

無理せず楽しく支援する方法を、長野の大自然の中で語り合いましょう！

【第1日目】

11月3日(土) 13:30~17:00

13:00 / 受付

13:30~17:00 / 民際センターからの報告
&各連絡会からの活動報告

18:00~20:00 / 懇親会

【第2日目】

11月4日(日) 9:00~11:00 活動報告

参加費:①会議参加:1000円

②懇親会参加:5000円(ディナーバイキング&飲み放題)

③宿泊:素泊まり5000円(朝食は500円又は1000円の2種類)

宿泊場合:佐久グランドホテル

☎0267-62-0031 ●Email:yado@saku-gh.co.jp

宿泊は上記ホテルに直接申し込みください。申し込みの際に「ダルニー連絡会全国大会参加」とお伝えいただければ、上記料金にて宿泊できます。

参加申込み:佐久ダルニー連絡会 世話人 柳澤光一

☎0267-62-9312 ●Email:mari0927@coral.ocn.ne.jp

事務局活用リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様のお問い合わせやご要望にお応えしています。

※ご利用につきましては、以下の要領でご連絡願います。

地域で奨学生や図書セットを広める活動をしたい

- ①書き損じハガキ・未使用テレカの収集
- ②使用済みインクカートリッジの収集
- ③パンフレットまたはリーフレットの設置
- ④不要な本を集めてブックオフに送る
- ⑤募金箱を設置したい

お気軽にお電話またはメールでお問い合わせください。折り返し資料などをお送りします。また、ホームページでも紹介しておりますので是非ご覧ください。

奨学生や現地のビデオを見たい

DVDは現地情報満載の広報ビデオ(13分)。パネルを貸し出すこともができます。送料は負担願います。

個人でタイを訪問し、奨学生に会いたい

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください(メール可)。折り返し、資料をお送りします(3~5月と10月、学校はお休みのため訪問できません)。

タイの奨学生と文通したい

- ①手紙の翻訳
- ②タイの切手購入

①:タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と80円切手4枚を同封して送ってください。
②:タイ切手セット(12回分1000円)の代金は郵便定額小為替か現金でお願いします。
80円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。

※奨学生の氏名をカタカナで読みたい方は、電話、メール、ファックスでお問い合わせ下さい。

民際事務局でボランティアをしたい

PC入力、DTP経験者、事務作業など。電話またはメールで担当、窓口までお問い合わせください。

奨学生の説明を聞きたい

事務局では随時無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

タイの奨学生にプレゼントしたい

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください(メール可)。折り返し、資料をお送りします。申し込み締め切りは10月29日(月)です。プレゼントは原則として中学生が対象です。

毎年忘れずに送金したい

お申し込みいただければ、自動振込用紙(ゆうちょ銀行)を無料で送付します(タイのみ)。

編集後記

8月1日から入職した2人の新人女性を紹介します。△はじめまして。志賀多乙(だうる)と申します。

前職では、英語教育関係の研究や執筆をしてきました。2005年にエチオピアでボランティア活動をしたことから、貧困層の子どもの教育問題に興味を持つようになりました。私は、貧しい子どもが貧困の悪循環から脱出するために最も効果的な方法は教育だと信じています。これからも、より多くの子どもたちが教育を受けられるように、頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

△田中聰美(さとみ)と申します。大学での勉強やインターナショナルで教育を通じて、国際協力に実際に携わり、その意義や大切さなどを学び、興味を持ちました。今回、途上国の子どもたちの教育支援に関わる業務ができるについて、とてもうれしく思っています。すべての子どもたちに学ぶチャンスが訪れ、また生活環境の向上を目指し、全ての人たちが安定した生活を送ることができることを目標に、今までの経験を活かしながら頑張ります。よろしくお願ひいたします。



一般財団法人
民際センター

ダルニー通信 第67号 2012年9月1日発行 発行人:秋尾晃正
一般財団法人民際センター 〒162-0801 東京都新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F
TEL:03-6457-5782 FAX:03-6457-5783
Eメール:info@minsa.org ホームページ:<http://www.minsai.org/>
振替口座:00150-0-57664
表紙:ラオス 撮影:渡部 明浩



ミャンマー

奨学金対象地区は首都ミャンマーから北西に約60キロ、ヤンゴン県にある3つの村です。ミャンマーはようやく民主化がスタートしましたが、経済的に貧しく、中学の就学率は5割程度です。下の写真は奨学金対象地区の村です。子どもたちは水汲みをしていました。



SPOT LIGHT



今年度からミャンマー・ベトナムで
ダルニー奨学金をスタートしました。

両国とも対象は中学生。1年目は奨学金提供数を限って試験的に実施しています。



ベトナム

ベトナムでの奨学金対象地区はホーチミン市の隣のドンナイ省です。上の写真は奨学金を申し込んでいる小6の女の子です。父は家出し、母とは死別。現在、祖母と2人で僅かな収入で暮らしています。右の写真は別の子どもの家です。発展している都市部に比べ、農村部には経済的に貧しい家庭が少なくありません。